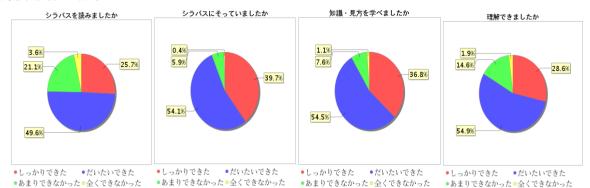
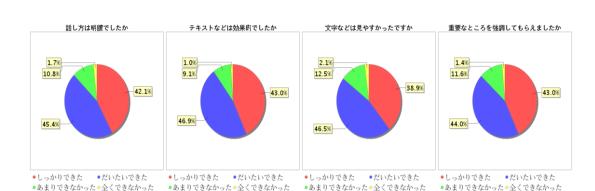
大垣女子短期大学 総合教育センター FD 専門部会

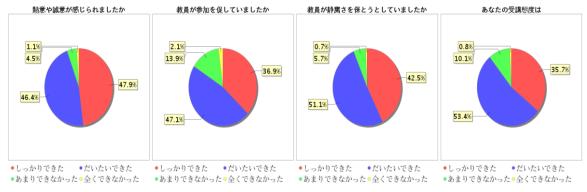
後期授業評価『学生から教員のみなさんへ』

平成29年度後期に全学科で、学生による授業評価を実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 講義系授業の結果



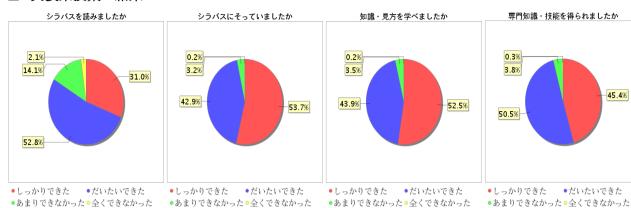


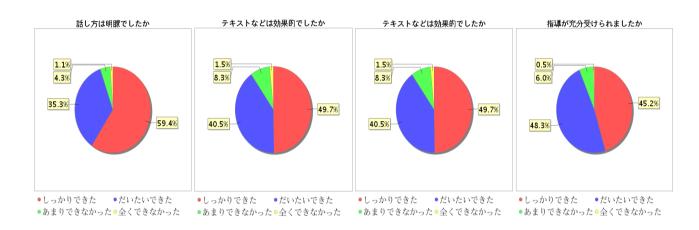


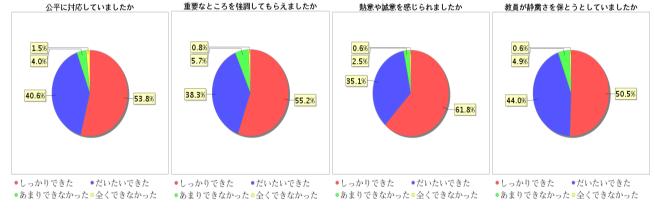


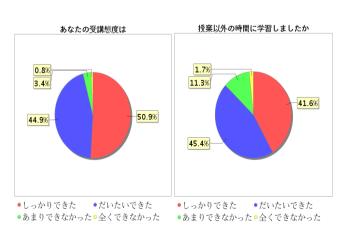


□ 実技系授業の結果











<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、"とても良い"または"だいたい良い"と回答した人は、講義系 90%、実技系 95%となっており、ほとんどの授業は肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、"しっかりできた" "だいたいできた" と回答した人は講義系で 89%、実技系で 96%と、昨年度後期と同程度に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 91%、実技系で 96%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度後期と同等に、新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、84%(昨年度 91%)と、昨年度同時期よりやや低下していました。

昨年度も課題であった講義系の"授業以外の学修"は、今年度もあまり伸びておらず、28%の人は 予習や復習ができなかった様子です。シラバスでも授業時間外課題の設定を行い、授業内でも教員が 呼びかけていますが、今後も引き続き改善のための取組を行う必要があります。"シラバス"を読ん だ人は、講義系で 75.3%(昨年度 73%)、実技系で 83.8% (前年度 78%) と実技系で昨年度より多く なっており、学修に必要な事項として定着しています。選択科目と比べて必修科目の場合のシラバス はあまり読まないという傾向がありますが、授業目標や到達指標を意識して授業を受けることが大切 なので、受講前にしっかり確認しておきましょう。

全体的に、講義系・実技系とも、多くの学生において授業への取組や内容の理解はできており、受講した授業についての一定の学修成果が得られた様子がこの結果からうかがえます。さらなる目標として、授業時間外学修による自主的な学びを充実させてほしいです。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目は $85\sim90\%$ で、昨年度よりも評価の幅が狭くなり、多くの学生から肯定的評価を得ていました。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要なところの強調」「十分な指導」「公平な対応」が $90\sim95\%$ と、おおむね高い評価を得ていました。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについては、講義系で84~94%、実技系で95~97%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。

授業を行うのは教員であり、その内容や実施方法、学生への働きかけなどが、授業の雰囲気や学生のモチベーション、そして学修成果を左右します。今年度も本学の教員は熱意を持って各自で工夫をしながら授業に取り組んだ様子がこの結果に現れており、また、そのことが学生のみなさんにも伝わって、授業への取組や学修成果につながったものだと思われます。

半期に1回、自分の受けた授業を振り返ってそこでの学びを評価することは、学生の皆さんがこれからの学修を継続する上で大変有意義なものです。そして、「学生による授業評価」は、授業実施者である教員にとっても、受講者の評価を受けて自らの授業を振り返る貴重な機会であり、みなさんの意見を知る大切な場でもあるので、これからも必ず参加して下さい。これからも、学生のみなさんと一緒により良い授業を創り上げ、質の高い学修を目指していきます。

後期授業評価『教員から学生のみなさんへ』

平成29年度後期授業評価に対する教員(非常勤を除く)から学生のみなさんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 保育内容の指導法(人間関係)

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価から検討すると、項目ごとにも及第点をいただいている。当初、授業担当者の変更があり、 特に1年生であることから、不安にさせてしまったのではないかと反省している。

人間関係は、特に保育士関連は重要な科目であることから、特に学生の皆さんには、発達段階を意識した子どもの捉え方を学んでもらいたいため、各年齢における特徴を丁寧に解説したつもりである。

2. 今後の授業における目標

配布資料の改善に心がけていきたい。

講義スタイルのさらなる進化を心がけていきたい。

ミニ演習等を効果的に取り入れ、効果的な講義となるよう心がけていきたい。

学生と教員のコミュニケーションを大切に努めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

講義系の学習は、どうしても受動的になりやすく、配布資料の書き込みだけで終わってしまうことが多いように思うので、園の行事などがあった場合は、ボランティアとして積極的に参加するなど、授業時間外の学習の充実に取り組んでほしい。そして、現場の生の姿から、大学では学びきれない実学を学んでほしい。

◆ 保育内容の指導法(音楽表現)

1. 授業評価の結果に対するコメント

全ての項目で概ね良い評価を受けることができた。学生の保育技術・技能の差が出やすい授業だが、皆さんの学ぶ姿勢がよかったため授業を行いやすかった。双方の関係性が良かったからだと思う。今後もさらに創意工夫した授業展開が行えるようにしていきたい。

2. 今後の授業における目標

シラバス確認を促していきたい。また、授業時間外での課題も少しずつ増やし、その課題を授業で活かしながら保育技術の修得に繋げていきたい。

3. 受講学生に対する要望

常に積極的な姿勢で授業に臨んでほしい。

◆ 乳児保育Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

今年度は、学科平均よりも高い評価の値となりとても満足しています。

夏のボランティアで未満児クラスに入った人も多くいて、とても意欲を感じることができました。乳児保育の理解とともに実践で使えるようなものを授業に組み込むよう努力しています。評価では手作りおもちゃ作成が楽しいというだけでなく、年齢に合わせた発達の特徴とそれにあったおもちゃの視点を理解しようとする意欲あるコメントがありとてもうれしかったです。

2. 今後の授業における目標

ふれあい遊び、低年齢への絵本の読み方、遊び方など具体的に保育に役立つものを考えたいと思っています。全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定です。保育所にいる子どもたちの中で、お話をすることがまだできない"未満児"と呼ばれる乳児に対して、"寄り添って保育する"とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し実践できるようにしたいと思います。今年度の研究成果を基にして多様化する保育現場についての情報も伝えながら、1年現在での将来について考える機会を持てるようにしたいです。2年生の子育てサロンへの参加へつながる子育て支援についても触れていきたいと思っています。

3. 受講学生に対する要望

「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるように願っています。

安全に対する配慮だけでなく、おおらかな心とやさしい気持ちを持つことは乳児を保育する者にとって何よりも大切だと考えています。自分自身によいイメージを持って授業に臨んでほしいと思います。

◆ 保育内容の指導法(身体表現)

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価について、学生が授業内容を理解しながら積極的に取り組む姿が発揮された結果だと思います。この授業では、身体を使って表現するということで、時には難しくて表現に苦戦した場面もありましたが、自分自身が楽しみながら学ぶことが大切となります。その楽しみ方を学生自らが探り実践できたことは、担当者としてとても嬉しく思います。

2. 今後の授業における目標

授業の後半では、発表に向けた取り組みが中心となります。その発表の構成等、事前準備を慎重に 計画する必要があります。これからも受講生が納得できる授業展開を心得て学びの教材を準備してい きたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

この学年は、心が動く術を知っているとても素敵な仲間の集まりだと思います。私もあなたたちから学ぶことが多かったように思います。これからも自分自身が楽しみながら授業に参加できるよう、心身共に健康でいてください。

◆ 保育技術演習(集団遊び)

- 1. 授業評価の結果に対するコメント
 - ・今年度初めて受け持った授業であったが、学生が「花いちもんめをみんなでやりたい」など意志表示を し、結果としての部分があるが、主体的に集団遊びの授業に取り組んだ学生が何人もいたのはよかっ た。
 - ・保育者として子どもたちと一緒に楽しく遊ぶ大切さを学んだという意見がたくさん聞けてよかった。
 - ・保育スキルを高める授業であるので、学んだことを実習や現場で活かせるように意識して授業に取り 組んだので、実習につながるコメントが嬉しかった。
- 2. 今後の授業における目標
 - ・今年度初めて取り組んだ授業ということで、準備不足であったことを反省している。
 - ・プリントと講義と実技と盛りだくさんとなり、負担が大きかった学生がいたのは申し訳なかった。 反面、担当者の予想をはるかにこえて、綿密に図解して集団遊びの毎回のワークシートを書きあげて きた学生が複数いたのには感心した。担当者自身が勉強になった。
 - ・授業の流れや見通しを明確にもち、学生が興味を持ってより一層授業に主体的に取り組めるようにしていきたい。
 - ・授業形態を、講義と実演のよさを生かし、全員がよい緊張感をもった参加型のものになるように、シ ラバスやルーブリックを改善・活用し、授業方法を工夫していきたい。
 - ・保育技術のポイントをより適切につかみ、学生同士が良い所を学び合う記録となるようなワークシートを書く手順や時間配分の改善を図りたい。
- 3. 受講学生に対する要望
 - ・真面目に主体的に授業に取り組む姿勢は、大いに評価でき、とても楽しかった。 今後も意欲的に楽しむ気持ちで授業に取り組み、実習や現場に活かせるように学びを深めて欲しい。

【 音楽総合学科 】

◆ 卒業演奏

1. 授業評価の結果に対するコメント

履修者が少人数であるため記述式であったが、学生からの評価は概ね良好であった。

レッスン中、専門的な技術向上に向けたこと以外に、進路等の相談を受け学生各々に様々な対応を した結果、学生の記述は良いが、今後は授業時間内は本来のレッスンのみとし、諸相談はオフィスア ワー時間、授業後等を利用し対応していきたい。

2. 今後の授業における目標

今年度の公務員音楽隊受験結果を踏まえ、学生各々のレベルに合わせ更なるスキルアップを目指し厳しい指導を心掛ける。

3. 受講学生に対する要望

音楽的な個性を大切に。

リペア応用(木管Ⅱ)

1. 授業評価の結果に対するコメント

専門的な技術を身に付ける事が出来たと嬉しいコメントもあるが、公平について評価が低かった様です。記述にもあるが、個人の質問に対して個人に答えるだけではなく、全員に向かって説明をすれば、同じ質問が出る事はない。と言う所は非常に反省をするべきと考えます。

どうしてもマンツーマンになって、個人個人とのやり取りが強くなってしまう事もリペアと言う技能から仕方がない部分でもあるが、反省すべき点と考えます。

また、授業外の時間活用については、進路によって温度差がはっきり出てしまい、一般系に就職を考えていると、リペアに向き合う必要性が薄れてきてしまうようです。

2. 今後の授業における目標

まず、公平感については非常に反省するべき点であるため、日頃より意識付けを行い、

場面を考えながら行動して行きたいと考えます。

シラバスについて理解をしていない学生がいるので、再度シラバスについて説明を行うことを心掛けたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

シラバスの活用についてしっかり理解をする。

授業外時間の有効活用

「分からない」ではなく、何がわからないのか具体的に聞いてほしいです。

基礎的な所で躓いていると応用的な対応力が身に付けられなくなりますので、分からないところを後回しにしない様にして下さい。

◆ ウインドアンサンブル

1. 授業評価の結果に対するコメント

新しい環境でのウインドアンサンブルの授業は、ウインドアンサンブルコース、管打楽器リペアコース、ウインドアンサンブル関係2コース選択者の1・2年+科目履修生等総勢100名の授業ということもあり、なかなかペースをつかめず、学生にはかなり迷惑をかけてしまった。試行錯誤の毎日で、自分の方針をきちんと定め、学生に伝えることができなかった。授業評価は、かなり厳しいものであったが、これを重く受け止め、来年度に活かしていく所存である。教員が毎年かわってしまったという学生に対する負い目から、無意識に学生に遠慮してしまったことも良くなかったと反省している。新年度からは、心機一転、ウインドアンサンブルの魅力を伝え、みんなで一つの音楽を作り上げるための合奏基礎力、演奏力の修得に力を注ぎたい。また、楽器店をはじめ、多くの音楽関係の仕事や、公務員、一般職に就く学生が、社会で有用な人物となれるように、「社会人基礎力」「人間力」を身につけられるよう全力で指導して参りたいと考えている。

学生からいただいた貴重な意見、特に時間配分の工夫については、次年度しっかりと活かす所存である。

2. 今後の授業における目標

ウインドアンサンブルは、必修科目であるので、全員が演奏技術を向上させ、最後の定期演奏会で納 得のいく演奏ができるように指導したい。 小学校や幼児園などの学外演奏の機会を通じて、学生が聴衆の心を揺さぶる感動を味わい、演奏する喜び、意義を見いだせるようにする。

授業を通じて、挨拶・笑顔・TPOに適した挙措動作、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーションの基礎となる自己表現力を身につけさせる。

3. 受講学生に対する要望

特に、管打楽器リペアコースの学生は、カリキュラム的にもかなり忙しく、個人練習の時間を確保することは困難だとは思うが、事前に配布された楽譜について、音楽記号や作品・作曲家、時代背景等をしらべ、作品理解を深めてもらうと同時に、楽譜を丁寧にさらい、インテンポで演奏できるよう個人練習をしてもらいたい。

また、「社会人基礎力」「人間力」を伸ばすために、自己の人間的成長ができるよう、日々の努力を惜しまないでもらいたい。

【 歯科衛生学科 】

◆ 小児歯科学

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生から教員の取組みに対する評価において、「シラバス」「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「重要な点の強調」「熱意や誠意」「学生の授業参加」「授業の雰囲気」の全8項目において、3.2から3.5(4点満点)の評価点であり、いずれも全学や学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。また、学生自身の自己の取組みに対する評価においても、「シラバス」「学ぶ」「理解」「授業態度」「授業外学修」の学生自身の評価で3.0-3.3(4点満点)であり、5項目全てにおいて全学や学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。

2. 今後の授業における目標

予習・復習を含めて授業時間外での課題設定を実施し、学生と教員との双方向の授業にするよう努め、 学生への質問やグループワークによる学習の導入を今後も実施する。授業の中で「どの部分がわからないか」、「わかりにくかった点を再度説明してほしい」、さらに「自分でここまで調べた結果、なおわからない点がある」というように、質問する意図を学生自身が明確化し、質問しやすい授業の雰囲気にしていくように取組みたい。学生自らの学習意欲を引き出す「正の強化による自発的行動変容」に、よりいっそう力点をおいた教育を継続的に展開していく所存である。

3. 受講学生に対する要望

将来の歯科衛生士として歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともにシラバスの記載通りに予習・復習をしっかり行って授業に積極的に出席する事。

各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館やWEB等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。

◆ 歯科放射線学

1. 授業評価の結果に対するコメント

「前回の復習が長過ぎて、今日やる部分ができていない」のコメントがあった。それは、「定期試験」の為もあるが、実際の歯科診療ではエックス線撮影の最も大事な照射直前までの前準備に携わるのは歯科衛生士がほとんどとなる。歯科診療に於ける放射線撮影方法を具体的に述べると、エックス線フィルムを口腔内に挿入し3、4歯の歯を撮影する口内法、また上下顎の歯全体とその周辺の顎骨等を撮影する口外法のパノラマエックス線撮影などが中心となり行われている。それらの撮影に対し、フィ

ルムの保持や照射野の位置付けを行うと言う大事な役割を歯科衛生士が担うこととなる。

また、私自身が経験した事例として本学に赴任する以前の筆者の職場での臨床に於ける事例として、エックス線撮影が理由で退職した他校出身の歯科衛生士の事例も取り入れ、エックス線撮影に対する誤解が無く理解できるように強調した。

「放射線について学ぶ事で、前よりも放射線の見方が変わった。」との学生からの定期試験のことばかりでないコメントがあり良かったと思う。

- 2. 今後の授業における目標 (今年度、退職にてコメントなし)
- 3. 受講学生に対する要望 (今年度、退職にてコメントなし)

◆ う蝕予防処置法 I

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価に関しては、全学、学科平均ともに上回る評価でよかった。なかでも「教員の取組に対する評価」では、どの項目も高く自由コメントには「わかりやすかった」や「質問しやすい」など多くあり、理解できる授業展開を心がけている結果と受け止めている。また、「量が多い」、「難しい」などの相反する意見も少数であるがあった。そのことが、「自己の取組に対する評価」として現れていると感じる。この科目は専門知識を理解、暗記する内容が多く、また、計算問題もあるため、苦手意識をもつ学生が多い。国家試験の出題傾向の高い内容であるため、できる限り授業内で解決できるよう練習問題を多く取り入れている。おおむね学生たちは授業中熱心に取組み、個々の成績にも現れていたと思う。

2. 今後の授業における目標

「自己の取組に対する評価」の項目にあった、「シラバス」や「授業外」の比較的評価の低かった内容について、授業中に明示し課題も与えているので、実際には取組んでいるはずであるが、学生自身に意識させるようにしていきたい。授業中のプリント等への記録については、写すだけで満足しており、理解するところまでは達していない。どうしても時間の制限があるため、授業速度が速くなることもある。その点においても、やる気をなくさないようメリハリのある授業展開を心がけ、成果を実感できるように取組んでもらえるようにしたい。

3. 受講学生に対する要望

2 コマ続きの授業なので、授業の進みが速く、欠席するとそれまでの内容を理解することが難しい。 健康管理に留意し毎回の授業に臨んでほしい。また、沢山の専門知識を覚えることや、化学的知識が必要ではあるが、最初から苦手だと敬遠せず、地道に取組んでほしい。

◆ 口腔ケア技術演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

口腔のケアについて実習を中心に授業を進めていきますが、介護保険制度や摂食嚥下についても 授業の中で触れます。2年生前期で高齢者歯科、障害者歯科、摂食嚥下リハビリテーションを勉強し ていますので、それを前提に授業を進めました。しかし今回の評価で、内容が少し難しかったのでは ないかと感じました。

学生からのコメントにあったように、実習が中心にもかかわらず、導入部分での説明が不足していた 事や準備不足は大いに反省するところです。ただ実習手順のプリントは渡しているのと、毎回教員が デモンストレーションを実施しているので、自分自身でメモをとり、手順内容を把握し、口腔内をイ メージして実習に望むことができれば実りある実習になったのではないかと思います。

「各教員で評価が違う」とのコメントがありましたが、実技試験については1つの実技試験で1名の 教員が全員分評価するシステムなので、どのような場面で感じたのか、までコメントがあると今後に つなげられたので詳しく知ることができず残念でした。

2. 今後の授業における目標

ここまで学生に伝えておきたい。との自身の思いよりも学生の理解、興味などを把握したうえで 授業を進められるようにしていきたいです。取捨選択できるようにしたいです。

指示を待つのではなく学生自身で考えて行動できる教育をしていきたいです。

3. 受講学生に対する要望

デモンストレーションでポイントを言います。メモをとると実習に役立ちます。わからないことがあれば質問をしてください。何回も言うところは大切なところです。

看護学科 】

◆ 成人看護学概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

良かったというコメントもあれば、不満のコメントもあるのは通常であり、特に結果に対して思うことはありません。

2. 今後の授業における目標

目標を変更することはありません。

シラバスに載せてあるとおりです。

概論は援助論の基礎となるものですので、理解しておくべきことは理解しておかなければ 後々困った状態になります。

覚えることも多く学生は大変だと思いますが、目標をかえることはありません。

3. 受講学生に対する要望

とにかく大学生として自ら学ぶ姿勢をとってほしいと思います。

単に単位だけをとればいいというのでは、命にかかわる仕事に就くことに不安を感じます。

昨今の学生の特徴かもしれませんが、他力本願的な発想はやめていただきたい。

◆ フィジカルアセスメント演習

- 1. 授業評価の結果に対するコメント
- ・学生の皆さんも真面目に取り組んでいたと思います。
- 2. 今後の授業における目標
- ・講義が進むのが早いとのご意見をいただきました。分かりにくいところはできるだけ丁寧に説明する よう心がけていきます。
- ・演習時の指導ももう少しきめ細やかにできるよう、指導体制を充実させていきたいと思います。
- 3. 受講学生に対する要望
- ・フィジカルアセスメントを理解するためには、これまで学習してきた解剖生理学や病態学の知識が必要です。しっかり復習をしてから授業に臨んでください。そして身体診察の技術は1回の演習では習得できません。なおかつ1年次後期の実習でさっそく必要になります。演習後は空き時間を活用して積極的に練習を重ねてください。

◆ 在宅看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

在宅看護について、具体的にイメージできるようなDVDや演習を取り入れたことで、授業がわかりやすく興味が持てたと評価をいただきました。在宅看護は病院と環境が異なるため、実際にどう行っているかイメージがつきにくいということを、皆さんのコメントから知ることができました。今後もそういった教材を活用して、学生がわかりやすい授業ができるよう工夫できるようにしたいと思います。

2. 今後の授業における目標

在宅看護に興味がもてるように、またその実際についてわかるように工夫していきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

とくにありません。

◆ 看護関係法令

1. 授業評価の結果に対するコメント

本科目は、法の概念と厚生行政の仕組み、関連する法規について理解することを目標としている。 法令は難しいと考えがちであるが、実際の看護業務や社会生活とつながっていることを、事例を通して教授したことで、看護専門職として法令を学ぶことの必要性について理解を得られたようである。 しかし、総合評価は平均的評価を下回る結果であり、学生の興味、理解を得られる授業展開の工夫が必要である。

2. 今後の授業における目標

今期、学生の主体的な学習を促すために、グループワークに重点を置き授業を展開した。自分たちで調べ、まとめて発表することは大変であるが、重要な内容や自分たちの理解が不足している内容が明確になり良かった、と感じている反面、グループワークの出来栄えの差が目立った、と感じている学生もいた。グループメンバーの構成や進め方を工夫し、学習効果を高め学生の満足が得られる授業となるようすすめていきたい。

3. 受講学生に対する要望

看護専門職となるべく学んでいることを忘れず、主体性を持って授業に臨んで欲しい。

◆ 小児看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・履修者84名中回答者は39名、回答率が46.4%であり、当評価がすべての学生の意見を反映しているものではないが、約半数の学生の意見として受け止めたい。
- ・総合評価は3.1であり、学科の平均(3.5)に比べ、若干下回る結果であった。小児看護演習は既習の学習を統合する力が必要となる。それまでの学生の学習到達度が影響するため、単位はとれていても既習内容が十分理解できていない学生にとっては難しく感じられたのではないか。自己の取り組みに対する評価の「理解」が3・0で学科平均に比べ低い結果となっている背景としてもこのようなことが考えられる。
- ・課題・小テストを取り入れ、学生が自ら取り組み参加することを目指してきたが、取り組みが不十分な学生もいた。疑問点など質問するよう呼びかけてきたが、積極的に質問に来る学生は極わずかであり、自ら学ぶ姿勢を2年生後期に身につけさせることの困難さを感じた。学生が主体的に学べる授業形態を再度思案する必要がある。また、これは学科全体の課題でもある。
- ・学生が理解できていない部分については、シラバスの予定を変更し、再度授業の中で強化した。 自由記述では「わかりやすくて理解できた」「理解を深めることができた」という意見もあり、自 分のやり方は間違ってはいなかったのだと確認できたが、全体としてはどうだったのか回答数が少 ないため、疑問である。

2. 今後の授業における目標

・終講時のレポートや定期試験・再試験の結果を分析したところ、講義で繰り返し話している内容が 理解できていない学生がいた。やはり、IN PUT だけではなく、OUTPUT も取り入れることが必 要である。そのために、講義後の小テストや学生の発表の場を設けることも取り入れていく。

3. 受講学生に対する要望

• FD 研修の分科会でも話し合ったが、自ら学び考え行動する力が弱い学生が目立つ。これは学生だけの責任ではない。初学時より教員が意図的に関わり、仕向けていくことが必要である。学科全体で取り組んでいきたい。

◆ フィジカルアセスメント演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

1年次後期の開講科目ですが、生命を守る看護師の実践能力として重要な能力の1つです。学生に 興味を持って真面目に取組んでいただけたことと、指導の丁寧さや分かりやすさに対しての評価を頂 き、授業の効果を感じました。しかし、観察の根拠や正常・異常の判断については、既習の解剖生理 学や病態学の知識の活用が不十分であり、どのように理解を深めていくか時間的制限があるものの今 後検討していきたい。

2. 今後の授業における目標

観察(フィジカルイグザミネーション)ができたことに満足するだけでなく、さらに正常・異常の 判断を、根拠を持って説明できるように、アクティブラーニングを踏まえた授業設計を目指す。

3. 受講学生に対する要望

分かる楽しさを感じながら授業が進められるように、演習内容については、解剖生理学や病態学に 何度も戻り理解を深めましょう。分からないところは、積極的に質問してください。

◆ 母性看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

私のこれまでの臨床経験や事例を講義の中で話したことで、学生の母性看護に対する関心が深まったことは大変効果的であったと考える。説明が分かりやすいという意見が多く見られたため、今後も学生の反応をみながら、講義を行いたい。

2. 今後の授業における目標

母性看護学実習においては、学生が産褥期の看護で健康障害のない母親とどのように関わるのか戸惑う場面が多い。そのため、ロールプレイなどを導入した授業を今後も継続して行い、効果的な授業を検討していきたい。

3. 受講学生に対する要望 (特になし)

本学の教職員は これからも 学生のみなさんの学びをさらに深めるために よりよい授業づくりへの努力を続けます





energy energy energy energy energy en

授業評価にご協力いただいて本当にありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価 を受けました。これは、学生による授業評価とその結果に対する教員からのコメント、そしてそのコメ ントの公開という形で、授業についてのコミュニケーションが学生と教員の間で毎年行われていること の成果だと思われます。このようなやり取りの中で、本学の教員は学生からの声に耳を傾け、授業改善 への努力を日々重ねています。

これからも、「一人ひとりの学生が入学してから卒業するまでの間に何を学び、どのような姿で社会 に出てゆくのか」を常に心に描きながら、大垣女子短期大学の特色を生かし、より質の高い教育を実 践していきます。





一昨年度から、総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われることになりました。 平成29年度後期は以下の教員が顕彰の対象になりました。

保育内容の指導法 (人間関係) リペア基礎(総合)Ⅱ 外国語コミュニケーションⅡA

















